

外国語学習動機をどう捉え、研究し、実践するか —研究者と実践者の課題と挑戦—



- 講師： **中田 賀之** 教授（同志社大学）
- 開催日時： 平成28年12月16日（金）16:30～18:00
- 開催場所： 岩崎記念館 4階 F401教室



● 概要

動機づけという概念は、大変厄介である。心理学、教育学、異文化コミュニケーション、教育実践など、様々な視点が存在する。動機づけの実践や研究を行うにあたって大切なことは、自らが動機づけ概念の全体像を把握し、どの視点から動機づけを論じるかについて十分に理解していることである。本講演では、動機づけ概念の基本的な意味を説明し、外国語学習における動機づけの先行研究を概観しつつ、各々の位置づけや意義を整理する。その上で、自身の最近の自己調整学習の研究を紹介し、最後に学習者に対する動機づけ支援のありようについて論じたい。

● 講師紹介

同志社大学グローバル・コミュニケーション学部教授 (Ph.D., Trinity College, Dublin)。兵庫教育大学大学院・連合大学院准教授を経て、2015年4月より現職。主に、外国語学習（特に学校文脈）における動機づけ、自己調整学習、学習者・教師オートノミーについての研究している。最近の活動としては、編著『自分で学んでいける生徒を育てる—学習者オートノミーへの挑戦』（ひつじ書房）刊行、自己調整学習の実践・研究（論文）により平成26年度兵庫教育大学ベストクラス選定、EUROSLA Yearbook Prize受賞がある。

お問い合わせ

関西大学 外国語教育学研究科 英語教育連環センター

URL: <http://www.kansai-u.ac.jp/e-linc/>